

インターンシップ激励会

各学校が、伝統・地域性・生徒の実態などを考慮し、独自に設定した学校全体の教育・指導方針や、学校が定めている教育に関する目標や方針などを成文化したものが校訓と呼ばれるもので、多くの学校は創立当初から学校独自の校訓があるのが一般的です。「質実剛健」とか「敬愛」…、かわったところでは矢上高校の「腕に覚えのある人間、…」といったようなものもあります。このようにそれぞれの学校が昔から学校の教育目標や、育てほしい生徒像を“校訓”という呼び方で、延々と引き継がれていられるものだと思っていました。

しかし、本校は現在“校訓”と呼ばれるものがなく、以前から“伝統精神”という呼び方で「勤労・創造・仁心」という文言があるという状況です。なぜ本校は“校訓”と呼ばないのか、“伝統精神”の「勤労・創造・仁心」はいつできたのか。この二つが疑問になり、学校史等を調べて解決を図りました。

すると、創立当時の明治39年邇摩郡立農学校時代は“校訓”が存在していたことが分かりました。その校訓が、右のものです。これが、昭和15年頃には『忠良なる農村青年として、宏遠無窮なる皇恩に報い奉れ』とかわったようです。しかし、この校訓が引き継がれていったわけでもなく、その後新たに校訓を定めたとかといった表現はありませんでした。ただ、今の伝統精神に近いものが、昭和41年の邇摩高校大代分校の教育目標にありました。それが、右に示したものです。現在の勤労・創造という文言がありました。大代分校は昭和54年に閉校となり、この教育目標もここで終わりを迎えたようです。

“伝統精神”に着眼して歴史を振り返ると、昭和49年3月、当時の山崎亮平校長先生の創立70周年記念史巻頭言に次のような記載がありましたが、これが校訓なのか伝統精神なのか明確な記載はありませんでした。

純真にして素朴、健康にして明朗、勤勉と創造を愛好する精神こそ我が邇摩高校の伝統精神といってよいことが分かるであろう。

今の“伝統精神”として「勤労・創造・仁心」と明文化されたのは、昭和60年の学校要覧への記載からで、なぜこの年からなのか、なぜ「勤労・創造・仁心」なのか詳しくは残念ながら分かりませんでした。

本日(10月15日)、明日からインターンシップに出かける2年生に対して、激励としてこの校訓や伝統精神の話をしました。そして、本校のある教員が、本校の学校説明会の際に、邇摩高校の伝統精神を自分はこう解釈しているとして、次のように話をしていたので、その話をして激励しました。

邇摩高校の伝統精神は、「勤労・創造・仁心」です。この伝統精神を私はこう考えています。「この人と一緒に仕事をしたいと周りの人に思ってもらえるような人材を育成する、のが邇摩高校です。」勤労の尊さを理解していて、働くことを通して社会に貢献し、豊かな発想と創造力で新しいものを作り出し、思いやりを持って人に接し、人間愛の精神を持っている。邇摩高校はこんな生徒を育てるような学びをします。と伝統精神はいつているのだと思います。

—	—	—	—	—	
本	本	本	本	本	校 訓
日	日	日	日	日	
一	日	日	日	日	
日	を	勤	礼	誠	
を	反	勉	儀	実	
反省	省	な	を	な	
せよ	せよ	れ	守	れ	

教育目標

「誠実」は、人間の^{いのち}生命である
 「勤労」は、人格の母である
 「創造」は、人生の^{よるこび}栄光である

